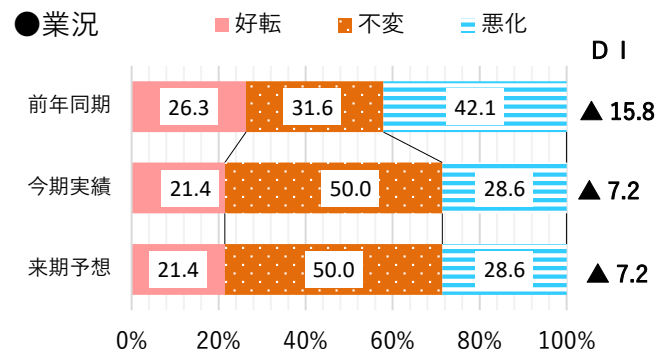


小 売 業

業況、売上、採算

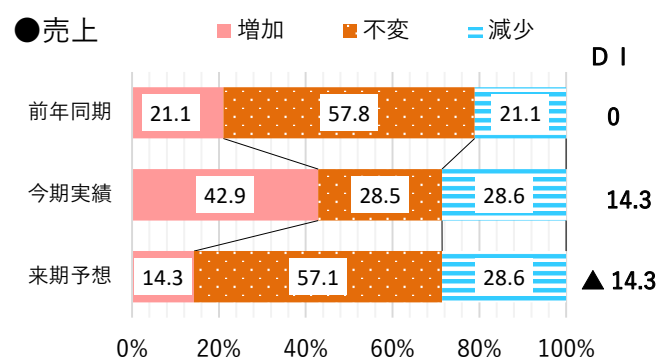
今期（2026.4～6）の業況DIは▲7.2で、前年同期（2025.4～6）と比べ8.6ポイント上昇しました。

来期（2026.7～9）の業況DIは▲7.2で、今期（2026.4～6）と比べ変化なしと予想しています。



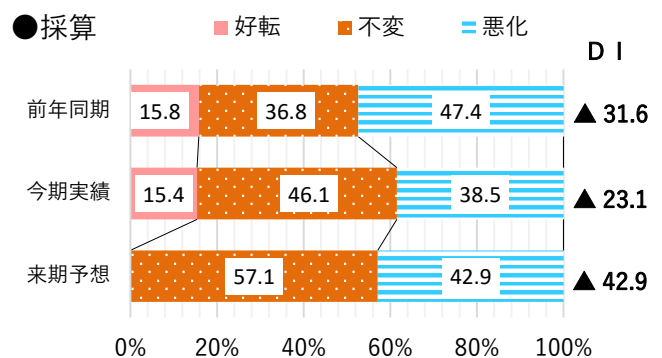
今期の売上DIは14.3で、前年同期と比べ14.3ポイント上昇しました。

来期の売上DIは▲14.3で、今期と比べ28.6ポイント低下すると予想しています。

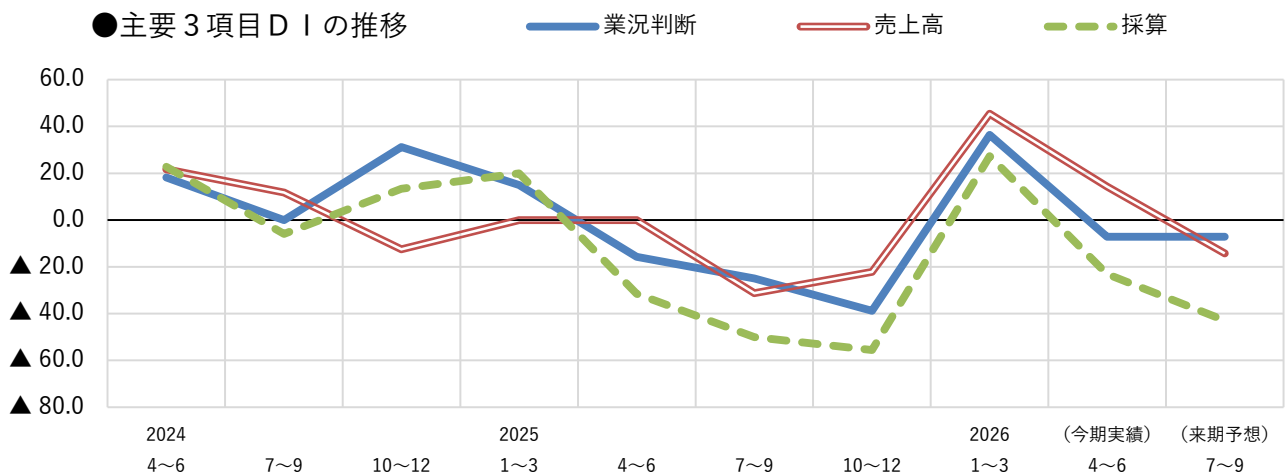


今期の採算DIは▲23.1で、前年同期と比べ8.5ポイント上昇しました。

来期の採算DIは▲42.9で、今期と比べ19.8ポイント低下すると予想しています。



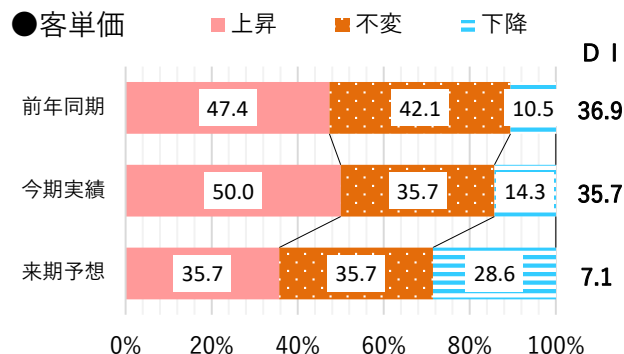
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

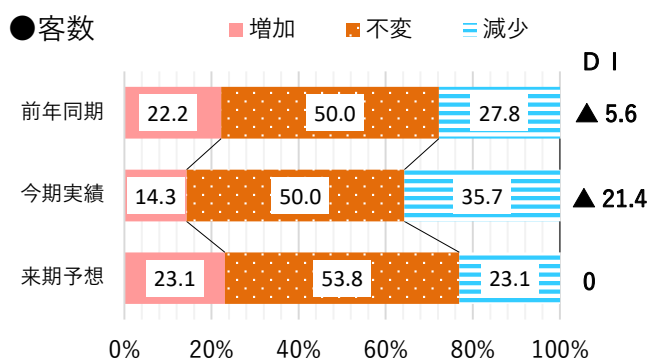
今期の客単価DIは35.7で、前年同期と比べ1.2ポイント低下しました。

来期の客単価DIは7.1で、今期と比べ28.6ポイント低下すると予想しています。



今期の客数DIは▲21.4で、前年同期と比べ15.8ポイント低下しました。

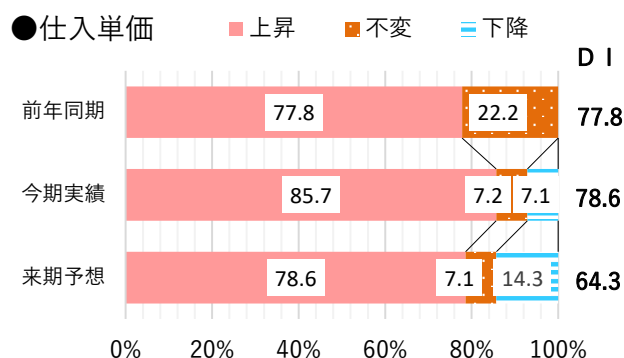
来期の客数DIは0で、今期と比べ21.4ポイント上昇すると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

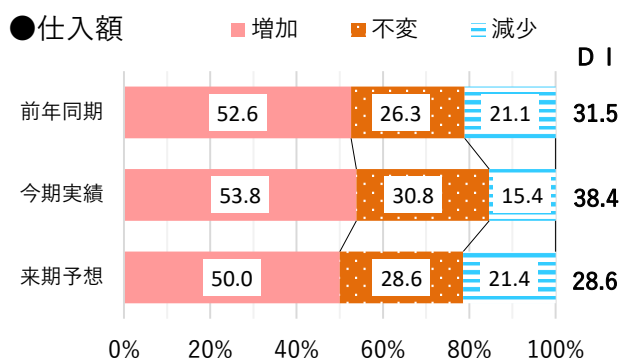
今期の仕入単価DIは78.6で、前年同期と比べ0.8ポイント上昇しました。

来期の仕入単価DIは64.3で、今期と比べ14.3ポイント低下すると予想しています。



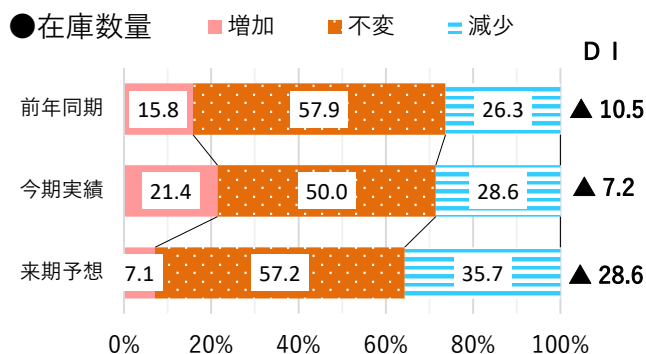
今期の仕入額DIは38.4で、前年同期と比べ6.9ポイント上昇しました。

来期の仕入額DIは28.6で、今期と比べ9.8ポイント低下すると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲7.2で、前年同期と比べ3.3ポイント上昇しました。

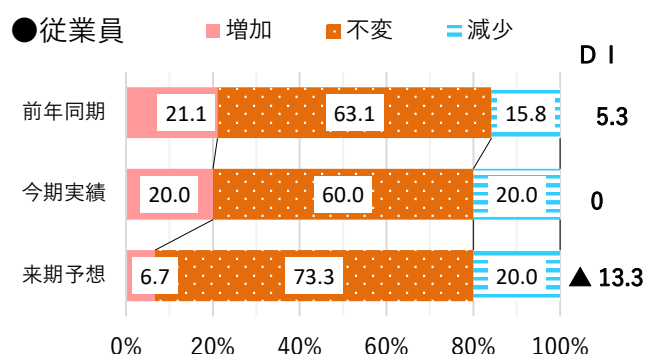
来期の在庫数量DIは▲28.6で、今期と比べ21.4ポイント低下すると予想しています。



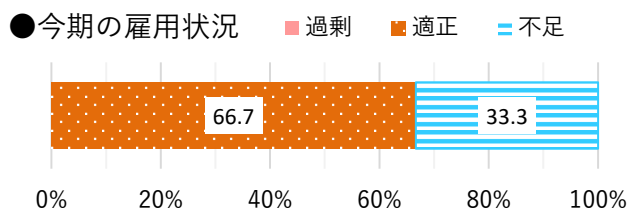
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0で、前年同期と比べ5.3ポイント低下しました。

来期の従業員DIは▲13.3で、今期と比べ13.3ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は66.7%、不足していると回答した企業の割合は33.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、46.7%を占めました。

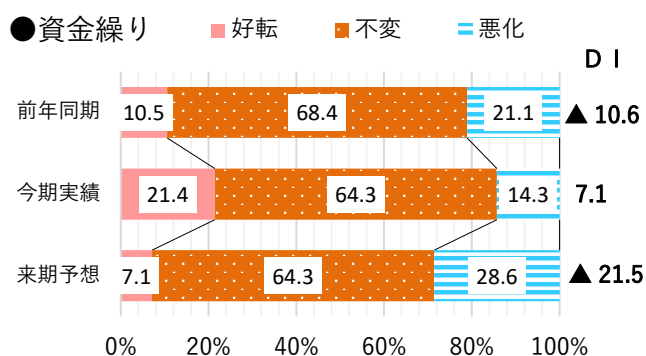
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	13.3%
	不足	6.7%
不変だった	過剰	0%
	適正	46.7%
	不足	13.3%
減少した	過剰	0%
	適正	6.7%
	不足	13.3%

※回答総数15社

資金繰り、設備投資

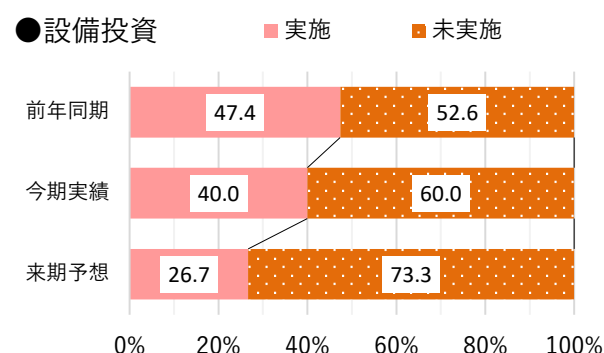
今期の資金繰りDIは7.1で、前年同期と比べ17.7ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは▲21.5で、今期と比べ28.6ポイント低下すると予想しています。



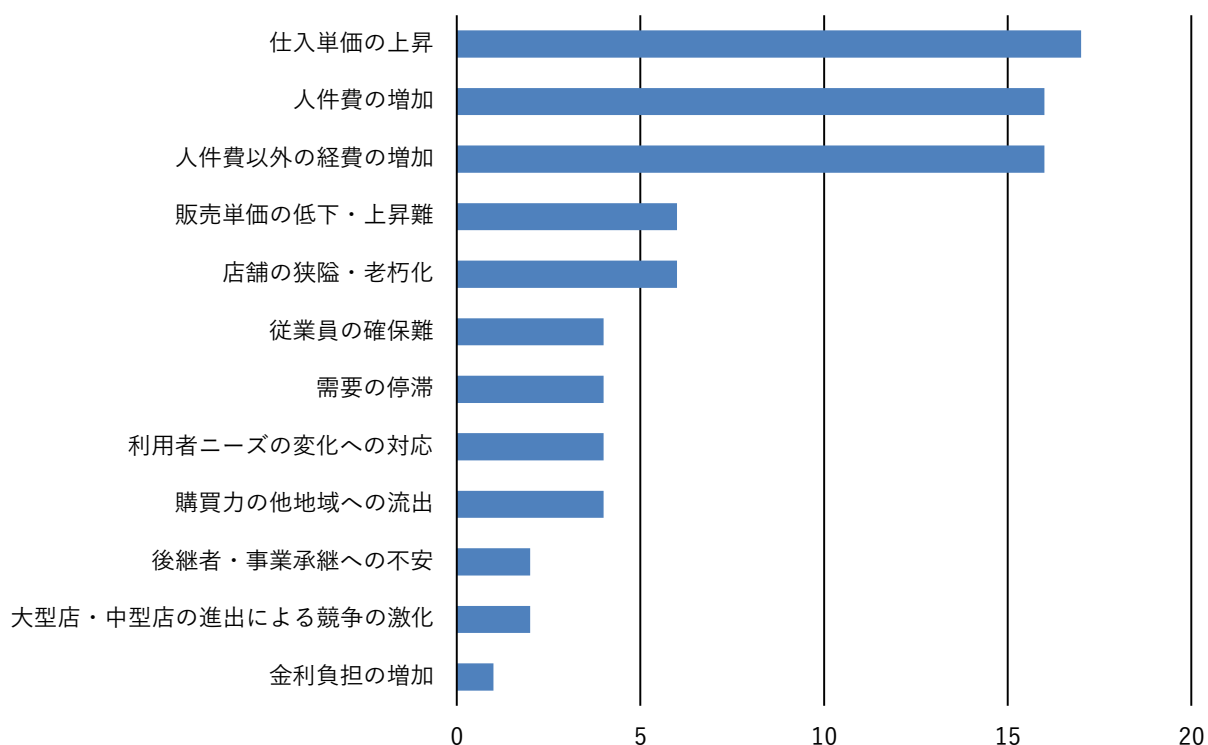
今期の設備投資は40.0%が実施と回答し、前年同期と比べ7.4%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「店舗」でした。

来期は26.7%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費の増加」、「人件費以外の経費の増加」（同位）の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 商品原料の高騰、従業員の高齢化、人件費確保等の諸問題に向けた効率重視の業務改革を推進している。
(大型店)
- 利用客数が減少したため売上額も減少した。(大型店)
- 気温が例年より早く上昇したことで園芸関連とナフサ関連の需要が伸びたが、5月中旬以降は品薄の影響で勢いが鈍化している。(ホームセンター)
- ナフサ不足の影響で納品未定の品物が出始めてきており、仕入値も上昇している。(食料品小売)
- 観光業が好調で、商品単価の上昇もあったので業況が好転した。(食料品小売)
- 包装資材の高騰と不足を心配している。(菓子製造小売)
- 石油由来の原料の仕入価格が上昇傾向にあり、今後タイヤの価格も上昇する見込み。(自動車小売)
- 人材確保が課題である。(自動車小売)

[来期の業況について]

- 去年と同様に気温が上がれば夏物が伸びる、プレミアム付商品券も追い風になると予想している。一方で、外国人の建材バブルのような現象は止まったと思われる。(ホームセンター)
- 仕入原価の上昇で収益の減少を見込む。(食肉小売)
- 商品単価の低下と同時に価格競争が起こると見込んでいる。(食料品小売)
- 包装資材の納品が不安定なことから商品の納品の予定が全く立たない状態になっている。(菓子製造小売)
- 来期は主力部品のマイナーチェンジが予定されているので性能等に期待している。(自動車小売)
- 中東情勢により予測ができない。(燃料小売)